

2023年8月9日

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育ユニット

外国人児童生徒教育研修

子どものための日本語教育の方法3

対面研修（第1～3回）のねらい

国内で、多様な言語的文化的背景をもって学ぶ子どもたち（小中学生）の日本語指導・教科学習支援について学ぶ。日本語の基礎的知識・技能と運用力、そして教科学習に参加するための日本語の力を育むために、①言語の力の把握（第2回）、②日本語基礎プログラム（第1回）、③内容と日本語の統合学習のプログラム（「JSLカリキュラム」）（第3回）の教育の方法について基本的な考え方と実践方法を、講義と事例から学ぶ。

「豆の木モデル」 外国人児童生徒等教育を担う 教員の資質・能力モデル



資質・能力の4要素 と課題領域		求められる具体的な力
捉える力	子どもの実態の把握	文化間移動と発達の視点から、外国人児童生徒等の状況を把握することができる。
	社会的背景の理解	外国人児童生徒等の背景や将来を、社会的、歴史的 文脈に位置付けることができる。
育む力	日本語・教科の力の育成	外国人児童生徒等の実態等に応じ、言語教育に関する専門的知識に基づいて、日本語・教科の教育を行うことができる。
	異文化間能力の涵養	外国人児童生徒等と周囲の子どもとの相互作用を通して、双方に異文化間能力を育てることができる。
つなぐ力	学校づくり	保護者や地域の関係者と連携・協力して、よりよい支援、教育のための学校体制をつくることができる。
	地域づくり	異なる立場の人々と協働しながら、学習環境としての地域づくりをすることができる。
変える/変わる力	多文化共生社会の実現	社会的正義と公正性を意識し、多文化共生を具現化することができる
	教師としての成長	外国人児童生徒等に関する教育・支援活動を振り返り、自己の成長につなげることができる。

<https://mo-mo-pro.com/>

Kodomo Nihongo Teachers (KNiT) をつなぐ (knot) ネットワーク (net)
公益社団法人日本語教育学会文部科学省委託事業成果活用特別委員会
このサイトでは、
文部科学省「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」（2017～2019年度）
の事業の成果を公開しています。

Model Program Search System
『モデルプログラム検索システム』
授業の目的、現場の状況と課題、受講者タイプ等の条件にあうモデルプログラムを検索できます。

プログラム検索 Program
プログラム検索はこちら

対面研修 会場:東京学芸大学 講義棟

研修日程	受講者	目指す資質・能力	研修で目指す求められる具体的な力	内容構成(A～N)	小項目
対面1 7月30日 (日) 13:00- 16:00	小中学校 年齢の子 どもへの 日本語・ 学習支援 者 経験は問 わず	・捉える力(子 どもの実態の把握) ・育む力(日本語・ 教科の力の育成) ・変える/変わる 力(教師としての 成長)	ウ 子どものことばの力を、日本語と母語の両 言語を視野に入れ、言語能力の多面性に留意 して測定したり評価したりすることができる。 サ 日本語に関する知識を生かして、子どもの 日本語の力に合わせた日本語や教科の指導・ 支援をすることができる。 フ 外国人児童生徒等教育を通して、自身のも のの見方を批判的に問い直すことができる。	F 言語と認知の発達 G 日本語の特徴 H 子どもの日本語教育の理論 と方法 I 日本語指導の計画と実施 N 成長する教師	子どもの言語発達 言 語能力の捉え方 (DLA)、外国語として の日本語、日本語指導 の内容(シラバス)、日 本語プログラム(日本 語基礎) 省察的実践家
対面2 8月8日 (火) 13:00- 16:00	小中学校 年齢の子 どもへの 日本語・ 学習支援 者 経験は問 わず	・捉える力(子 どもの実態の把握) ・育む力(日本語・ 教科の力の育成) ・変える/変わる 力(教師としての 成長)	エ 認知面の力と教科等の学力を、年齢的な発 達や学習経験を考慮して捉えることができる。 セ 学校内外の生活・学習に結び付けて、日本 語や教科の指導・支援、内容(教科等)と日本語 を統合した指導・支援をすることができる。 ホ 実践の質の向上のために、教師集団で経験 を共有したり相互に研修を行ったりすることが できる。	F 言語と認知の発達 H 子どもの日本語教育の理論 と方法 I 日本語指導の計画と実施 J 在席学級での学習支援 N 成長する教師	言語能力の測定法 (DLA)、言語教育の考 え方と方法(内容と日 本語の統合学習/JSLカ リキュラム)、指導計画 の作成、学習参加のた めの支援、 専門性の向上
対面3 8月9日 (水) 13:00- 16:00	小中学校 年齢の子 どもへの 日本語・ 学習支援 者 経験は問 わず	・捉える力(社会 的背景の理解) ・育む力(日本語・ 教科の力の育成) ・変える/変わる 力(多文化共生の 実現)	ク 子どもがどのような自己像を描き、どのよ うに社会参加し自己実現ができるかを、社会の 変化と共に展望することができる。 セ 学校内外の生活・学習に結び付けて、日本 語や教科の指導・支援、内容(教科等)と日本語 を統合した指導・支援をすることができる。 マ 外国人児童生徒等教育の経験を自身の教 師としての成長として意味づけることができる。	H 子どもの日本語教育の理論 と方法 I 日本語指導の計画と実施 K 社会参加とキャリア教育 L 保護者・地域とのネットワーク N 成長する教師	日本語プログラム(内 容と日本語の統合学習 (JSLカリキュラム))、 指導計画の作成、模擬 授業、社会参加とこと ばの力 教師としての成長

自己評価票・・・自己の成長を捉えるために

事前に記入をしていますが、今日の研修は「捉える力(子どもの実態把握、社会的背景の理解)」「育む力(日本語・教科の力の育成)」「つなぐ力(学校づくり)」を軸に構成しています。

終了時点で、再度、自己評価を行い、この研修で学んだことを確認してください。

自己評価票をご提出の上、以下のアンケートのご協力をお願いいたします。

自己評価票の提出先:

アンケート : <https://forms.gle/gdHrjFB1AghoP2xX8>

2023年8月9日

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育ユニット

外国人児童生徒教育研修

子どものための日本語教育の方法3 内容と日本語の統合学習② 「JSLカリキュラム・教科志向型」

東京学芸大学教職大学院

©齋藤ひろみ

1 「子どもの日本語教育」の考え方

(1) 日本語教育の課題

成長・発達過程にある子どもにとって

ことばを獲得すること＝世界を広げ成長・発達すること
(≠言語知識や技能の獲得)

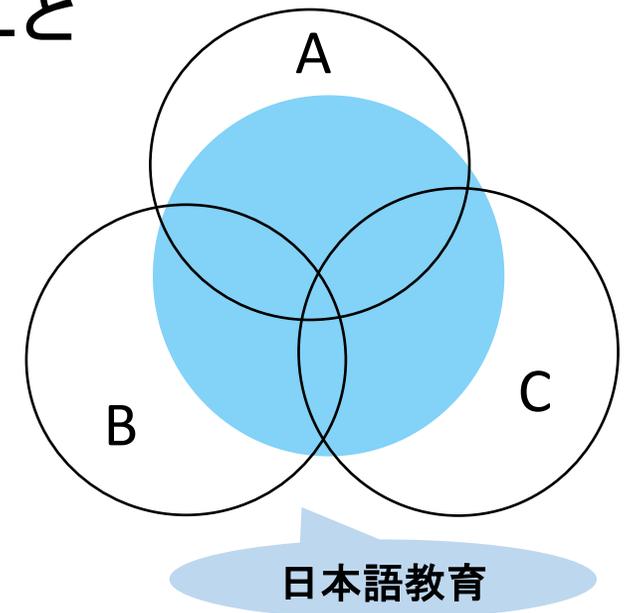
日本語教育≡成長・発達を支える全人的教育

<日本語教育の課題>

A 学校・社会生活…文化適応とコミュニケーション

B 学習・認知面の発達…教科等への学習参加

C アイデンティティ形成・自己実現 …キャリア形成・社会参加



(2) 日本語のコース設計 – プログラムを組み合わせて –

⇒「個別の指導計画」の作成

	～6か月	～1年	～1年6か月	～2年
サバイバル日本語	→			
日本語基礎 文字・表記 語彙・文法	→	→	→	→
技能別 日本語		→	→	→
教科と日本語 の統合学習		→	→	→
教科の補習	適宜	→	→	→

子どもたちの生活・学習場面に関わらせ課題遂行型(タスク)活動で日本語を使って行動できるように

この後の漢字語彙、文法の学習は、技能別の学習に組み込んで

1センテンスではなく、文章・談話の学習

教科等の内容と日本語の統合学習の考え方で実施(文科省開発「JSLカリキュラム」)

在籍学級と相談して、母語支援が可能であれば母語で

学級・学年・学校の総合・学活等の学習に関連づけて

緑: 小学校低学年 青: 小学校高学年以上

(3) 日本語教育の課題と言語能力

カミンズ(2000~)のモデルに照らして

「会話の流暢度・弁別的言語能力・教科学習言語能力」

(=外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント(DLA)における言語能力モデル)

課題	A 学校・社会生活		B 学習・認知面の発達
	C アイデンティティ形成・自己実現		
言語能力	<p>①会話の流暢度 Conversational Fluency =生活言語能力</p>	<p>②弁別的言語能 Discrete Language Skills 音韻意識、音と文字の関係、 文字認識、単文形成力、語彙、 文法構造</p>	<p>③教科学習・言語能力 Academic Language Proficiency =学習言語能力</p>
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・サバイバル日本語 ・日本語基礎における運用練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語基礎 ・技能別日本語 ・内容と日本語の統合学習での語彙・表現の学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能別日本語 ・内容と日本語の統合学習

2 「内容と日本語の統合学習」(「JSLカリキュラム」)

→ 学習言語能力 教科の力 思考する力

(1) 文部科学省 「学校教育における JSLカリキュラム」

内容を重視する言語(日本語教育)の考え方

- ・内容を優先。日本語は学習のための言語的手段
- ・内容 × 日本語 のクロスカリキュラム
- ・教科内容 × 日本語 ⇒ 「教科と日本語の統合教育」

Japanese as a Second Language 「生活上必要な第2の言語としての日本語」

成長期にある子どもの場合: 日本語は、社会・学校生活に必要なコミュニケーションのための道具であり、**友達や先生と共に教科等の学習に参加し**、社会的存在として成長するための言語(「JSLカリキュラム」の主眼)

ねらい: 教室空間で、学習活動に仲間と共に参加するための日本語の力(=「学ぶ力」)を育むこと。

重要な考え方: 内容(教科)の**学習文脈**に埋め込んで(切り離さずに)**ことばを学ぶ**。・・・体験や具体物・視覚情報等による支えのある状況で、教科等の内容に関する探究活動を行い、気づき・理解したことを日本語で表現し・整理する。

①いつから？

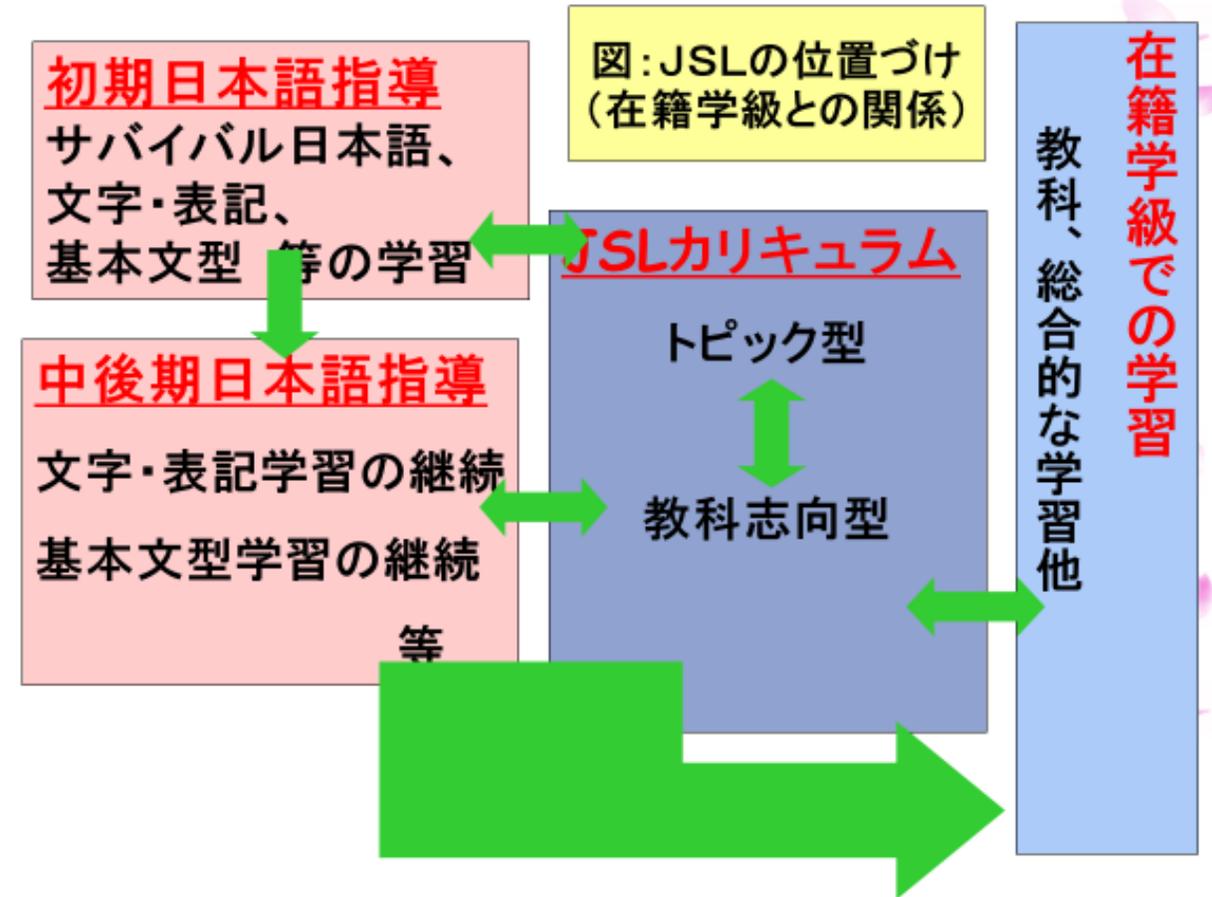
初期の日本語指導の後に導入し、中後期の日本語指導に関連付けながら並行して実施（★日本語での簡単なやり取りができるようになったらできるだけ早い段階から実施）

②いつまで？

JSLカリキュラムから在籍学級の学習への緩やかな移行が望ましい在籍学級での学習にも関連付けながら実施。

③その判断のために必要な「子どもの捉え方」

- ・学校生活への適応状況・心の状態
- ・日本語の力とそのバランス
- ・教科学習の経験、知識・技能
- ・在籍学級での学習参加状況



在籍学級の学習との関連付けが不可欠

- ・在籍学級での子どもの学習状況に合わせ
- ・在籍学級の学習に関連付けて、内容・目標を決定し実施

2 「JSLカリキュラム」が提供する方法

(1) 子どもたちの多様性への対応

子ども達の背景は多様

生育歴、学習歴、日本語の力、認知的発達、家庭環境、
母語、母文化、習慣

⇒ 固定的カリキュラムでは対応できない

◎ 対象児童に応じてカリキュラムを作る

「JSLカリキュラム」= 授業作りのツールの提供

- 内容選定・目標設定の考え方
- 授業の構造(展開)
- 活動単位(Activity Unit)という考え方
- 日本語支援の方法
- 授業例

文部科学省ウェブサイト CLARINETへようこそ 「JSLカリキュラム」の情報

「学校教育におけるJSLカリキュラムの開発について」(最終報告)小学校編

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008.htm

トピック型JSLカリキュラム AU一覧 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008/004.htm

指導案 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008/005.htm

教科志向型JSLカリキュラム 国語科・社会科・算数科・理科 活動一覧／指導案

「学校教育におけるJSLカリキュラム(中学校編)」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/011.htm

日本語支援の考え方とその方法

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/icsFiles/afieldfile/2015/10/06/1235804_002.pdf

各教科(社会科・数学科・理科)用語対訳

社会科用語対訳

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2015/10/06/1235806_022.pdf

(2) 2つのタイプのカリキュラム

トピック型

- 身につけさせたい力
各教科共通の基本的活動に参加する力
- 授業の作り方
教科を特定せず子どもの実態・
経験に基づき興味関心のあるト
ピックを巡って
- 授業の構造
体験、探究、発信の流れで活動を
組み合わせて

教科志向型

- 身につけさせたい力
各教科の学び方と、教科の学習活
動に日本語で参加する力
- 授業の作り方
対象児のその教科における学習状
況に基づいて教科内容を選択し
- 授業の構造
各教科の授業展開で教科の学習活
動を組み入れて

授業展開－教科志向型

教科志向型の授業展開

国語：4領域1項目で、伝え合う場を構成

話す・聞く、読む、書く、言語事項

算数：問題を把握する⇒解決の計画を立てる

⇒計画を実行する⇒結果を検討する

理科：課題を把握する⇒予想する⇒観察・

実験・調査する⇒考察する⇒発表する

社会：課題をつかむ⇒調べる⇒まとめる

(3) 小学校JSL ⇒ 中学校JSL

小学校JSL

中学校JSL

<共通:基本的な考え方>

既有知識・経験を土台に
体験的・経験的活動によって
日本語を使って活動に参加する力を育む

<認知発達、教科の知識・スキル、経験の違いに着目して>

- ・基本スキル・概念の形成
- ・具体物・体験を中心に
- ・理解は活動で
- ・言語化のプロセスを丁寧に
- ・リズムやテンポも重要

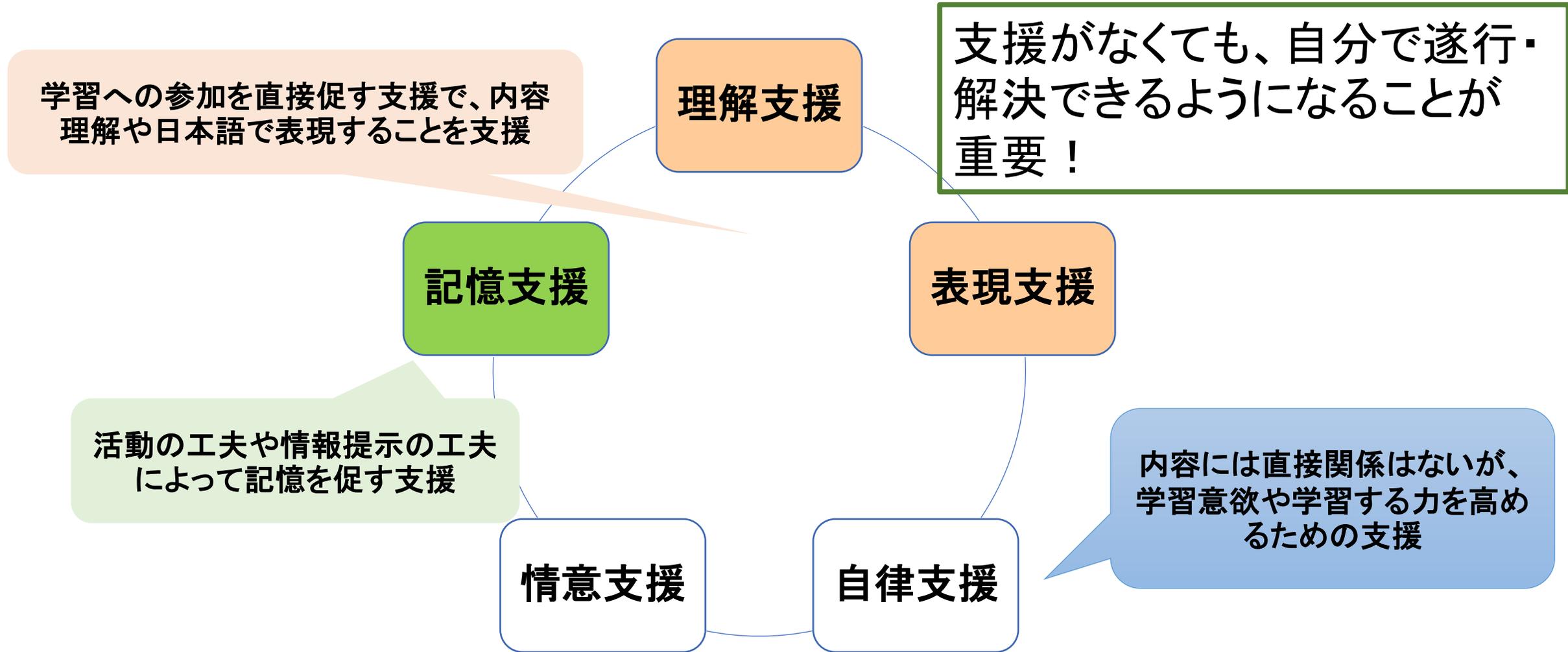
- ・教科の重要概念・スキル
- ・半具体と抽象概念も
- ⇔ ・理解できるレベルの言語で
- ・言語化を意識して行う
- ・論理性や一貫性を意識化

3 授業づくりの流れ

授業づくりの流れ	決定すること
0 対象児童生徒の把握	日本語の力、母語の力、教科の学習歴、学習内容に関する事前の経験、知識・スキル
1 在籍学級の授業との関係の明確化	全て取り出しで学習 / 一部取り出しで学習 先行か 途中補習か 後行か
2 学習内容の決定	対象児童の実態に応じて内容を絞り込む
3 目標の設定	教科内容についての目標(重要な用語の選定) 日本語に関する目標
4 活動展開の決定	各教科の典型的な授業展開を、スモールステップで (問題解決型の授業展開に)
5 日本語表現の決定	授業内の各活動に参加するための日本語表現 「教師の働きかけ」と「児童生徒の応答・発話」を具体的に
6 支援、教材・教具の具体化	理解・表現のための支援(視覚化、操作化) 必要な教材・教具(作成する)
7 評価の対象と方法の決定	どの活動で何をみてどのように評価するか

各教科のAUを参照して

ポイント3 活動参加のための支援の工夫 (スキヤツフォールディングの考え方で)



参考 学校教育におけるJSLカリキュラム(中学校編)2. 日本語支援の考え方とその方法

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2015/10/06/1235804_002.pdf

3つの支援の具体(直接的支援:理解・表現・記憶)

理解支援	表現支援	記憶支援
<ul style="list-style-type: none">・言い換える・視覚化する・色分けして示す。・例示する 具体的な例を示す・比喩を利用する・対比させる・明示する・簡略化する・整理する・補足する・関連付け・既有知識の活性化する	<ul style="list-style-type: none">・選択肢を示す・表現方法を示す・モデルを示す・キーワードを示す・対話で引き出す・母語で表現させる・学習した内容を分割して示す・内容構成のためのシートを準備する	<ul style="list-style-type: none">・内容の構成例を示す・視覚化する・身体化する・音声化する・物語化する・連想、グループ化・反復する 上の工夫をして、繰り返し聞かせる、言わせる、描かせる、読ませる・接触機会を増やす

事例から学ぶ

小学校低学年	小学校高学年	中学校
<p>単元 小2 国語科『ともこさんはどこかな』 光村図書(H17～)</p> <p>対象 伯・秘 日本生～滞日1年</p> <p>目標</p> <p>国語科: 迷子を捜す上で大切な情報を相手にわかりやすく話したり聞き逃さないように聞き取ることができる。</p> <p>日本語: 「着る」「はく」などの着脱動詞を的確に使って、迷子の子どもについて服装と持ち物の特徴を、友達にわかりやすく話すことができる。</p> <p>齋藤他『外国人児童生徒の学びを創る授業実践』くろしお出版</p>	<p>単元 小6 算数科＋社会科 『順序よく整理して調べよう』</p> <p>対象 ネパール・中国 滞日半年～6年</p> <p>目標</p> <p>算数科: 具体的な事柄について、起こり得る場合を順序よく整理して調べることができるようにし、筋道立てて考えを進めていこうとする態度を身につける。</p> <p>日本語: 移動の全コースの中から、選んだコースとその理由について、順序を表すつながりの表現と例示、理由の表現を用いて説明することができる。</p> <p>村中義夫他「算数と学校行事を横断する「JSLカリキュラム」の実践—日本語指導におけるカリキュラム・マネジメントの視点から—」『子どもの日本語教育研究』第3号。 p.38－56</p>	<p>単元 中2 社会科 歴史 『日清・日露戦争と近代産業』</p> <p>対象 ネパール 滞日3年</p> <p>目標</p> <p>社会科: 日清・日露戦争の流れについて理解し、風刺画の題名を考えることができる。</p> <p>日本語: 社会科の用語や表現(「～だからです」等)を使って、風刺画のタイトルについて考えたこととその理由を説明することができる。</p> <p>齋藤が研究授業で参観・写真撮影</p>

小2 国語科『ともこさんはどこかな』（4時間）光村図書（H17-22）

活動展開

①迷子のアナウンスを聞き、学習課題を把握する(1H)

②迷子探しのための聞き取りのポイントを知る(1H)

③迷子のアナウンス分を創り、迷子探しゲームをする(1H
取り出し、1H在籍学級)

<迷子のアナウンス分(モデル)>

まいごのお知らせをします。Jonathanくんという、8さいの男の子がまいごになっています。青いふくをきて、みどりのズボンをはいて、赤いリュックをしょって、黄色いふうせんを持っています。見かけた人は、かかりまでお知らせください。

T:まいごの子は、誰ですか？
〇〇さんは、どんな服を着ていますか？何を持っていますか？
S:〇〇さんは、赤いズボンをはいています。オレンジ色の風船を持っています。

<在籍学級の同級生の感想>

- ・ぼくが気づかなかった人を迷子にしている、すごいなあと思いました。
- ・ぼくたちと同じ勉強をしていることが分かりました。

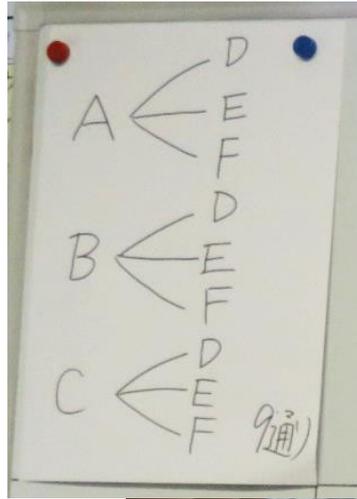
語彙、文の構造の意識化



小6 算数科 「順序よく整理して調べよう」

活動展開

- ①前時の感想をもとに目標を設定する。
- ②めあて「下田の町を散策する計画を考え、伝えよう」を知る。
- ③樹形図や表を使って、コースがいくつあるか考える。
- ④散策する計画を立てる。場所の選択→順番の決定→所要時間の確認・調整→コース決定の理由を考える。
- ⑤選んだお勧めのコースを黒板に貼って、相互に紹介し合う。
- ⑥学習感想を書く。



〈めあて〉
下田のまちを散策する計画を考え、伝えよう。

1まず～へ行って、次に～へ行って最後に
2～たり ～たり ～たりできるからです

S2: Oさんは、まず、あじさいぐんせいちへ行って、次にひものかしどおりへ行って、最後に下田駅に行きます。54分です。おすすめポイントはなんですか。

S3: リラックスできる？ 自然？
S2C: 気持ちがかかるからです。

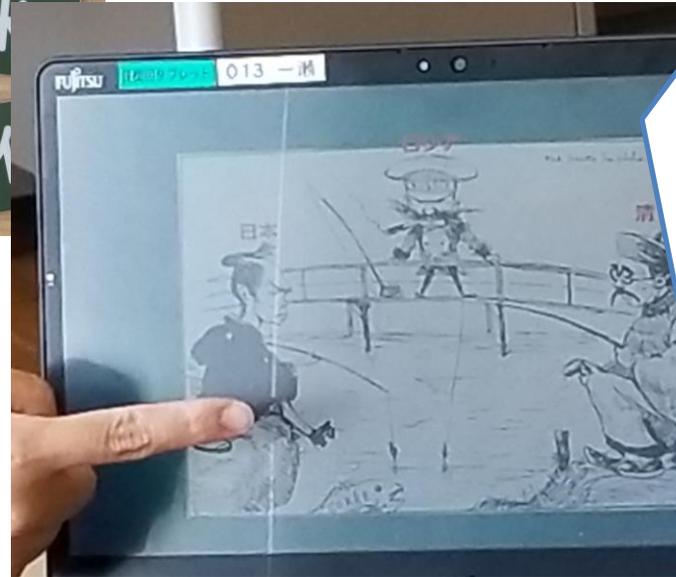
T: Aを選んだら、次はどこへ？
S1: D
T: どうして？
S1: エリア(ア)から1つしか選べないから。
T: Aの次はD, 他は？ 例えば？
S1: E, F

かかった時間	49分	50分	49分
おすすめポイント	歴史 リラックス 歴史・人物	めずらしい！ 多くのあじさい なまこがへ	

中2 社会科 歴史 『日清・日露戦争と近代産業』

活動展開

- ①国の漢字表記、国を表す漢字の復習。
- ①7枚の風刺画でこの時代の歴史的な動きを捉える。
- ②1枚ずつ(スライドで)に描かれている状況を確認する。
- ③ワークシート・教科書で出来事を確認。
- ④題名を考える
- ⑤題名と理由を発表する(説明する)。



- T:どこですか。
S:清
T:今の国は?
S:中国です。
T:何をしていますか?
S:魚釣り
T:魚に何か書いてあるね。
S:コリー
T:コリーって何のこと?
S:韓国
T:じゃあ風刺画の題名を考えよう。
S:「私の魚」にします。
T:どうして。
S:3人とも、魚を取ろうとしているから。
T:どうして「私の魚」にしたの?
S:三人は魚をとりたいたから。
理由は「自分が欲しい」と言っているからです。
T:魚はどこでしたか?
S:コリア
T:日本語では
S:朝鮮
.....

まとめ 「JSLカリキュラム」の授業づくり

- ① 学習経験/興味関心等からトピックを決定 ⇒ 探究型の学習活動へ
- ② 目標 どのような表現を使ってどのような活動に参加できることを目指すか。

③ 授業展開

④ 活動毎に

日本語の表現を設定

話しことば中心
→ 書きことば
(一方向で話す・書く)

⑤ 学習活動に参加するための支援の工夫

佐藤郡衛・齋藤ひろみ・高木光太郎
(2005)「JSLカリキュラム「解説」」スリーエーネットワーク をもとに整理

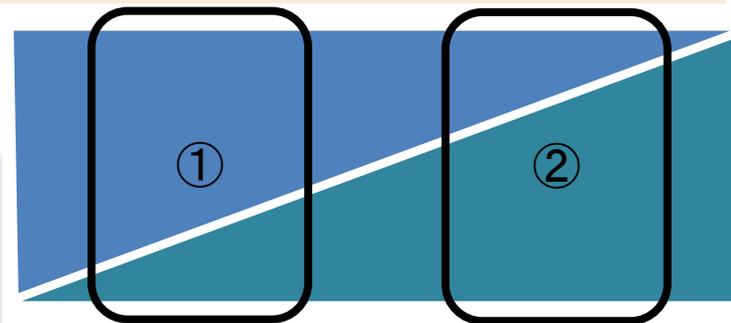
授業の展開	日本語の表現	支援・教材
既習知識・経験を活用し、日本語で確認し、課題を把握する。	活動参加を促す「教師の働きかけ」と「子どもの応答」の日本語表現を具体的に想定する。	各活動への参加を促す支援と教材の工夫
各教科の探究活動 課題について、操作・観察・調べる等の活動を通して探究する。	観察時(話しことば・やりとりで) T:AとBはどこが違う? S:Aは～。でもBは～。結果について話し合う T:どうして違うのかなあ? S:～だから。	理解支援 表現支援 記憶支援 + 情意支援 + 自律支援
気づき、分かったことを日本語でまとめ、他者に伝える。	観察をまとめる(書きことばで) S:～を調べました。Aは～けれども、Bは～でした。～が違うからです。	

参考 教科と日本語を統合すること・・・横断型

①日本語の
学習

- ①日本語の学習で、場面や課題で子どもの関心や内容(教科)を取り入れ、関連付ける。
- ②内容(教科)の学習に、子どもが日本語で参加し、教科と日本語の両方の力を高める。

②内容の
学習



内容重視型の日本語教育
内容の比重(イメージ)

①日本語指導で

表現や文型の練習時に、教科の内容に関連付ける

- 例) 文型「～くなります」の学習で
理科「植物の観察」に関連付けて
- ・大きくなりました
 - ・トマトが赤くなりました

②教科学習で

- 教科内容・学習活動で使用する日本語を
学習者の日本語の力に応じて言い換えたり、
理解や表現のための支援をして授業をする
- 例) 社会科の気候の学習で雨温図を見て
- ・月は何度です。
 - ・月から〇月まで、気温が高くなります。

内容を重視した日本語教育の効果

- 知的好奇心の刺激 ⇒ 学習への動機付け
- 内容に関するやりとり = 本物のコミュニケーションを経験
- 内容を文脈とした言語の理解・産出 ⇒ 日本語の力
+ 内容についての知識・概念の形成

「授業づくりの視点」

国立教育政策研究所(2014)

『教育課程の編成に関する基礎的研究報告書7 資質や能力の包括的育成に向けた教育 課程の基準の原理』

- ・子どもは有意義な文脈で学ぶ
- ・子どもは自分の考えを持っている
- ・子どもは対話で考えを深められる
- ・考えるためには材料が要る
- ・すべ(方略)は必要に応じて使うことができる
- ・学び方は繰り返し振り返って自覚できる
- ・教室や学校に学び合いの文化があると学びやすくなる

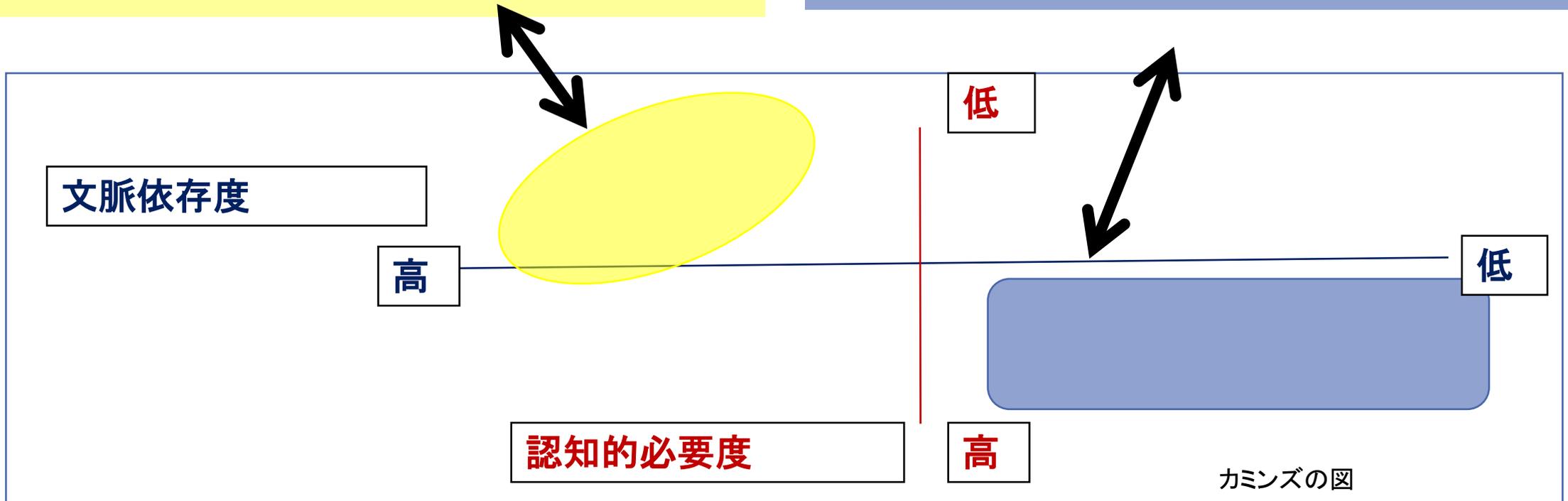
参考 生活言語能力と学習言語能力

日常生活場面のことばの力

- ・話しことば中心
- ・日々の日本語への接触や友達とのコミュニケーションを通して獲得

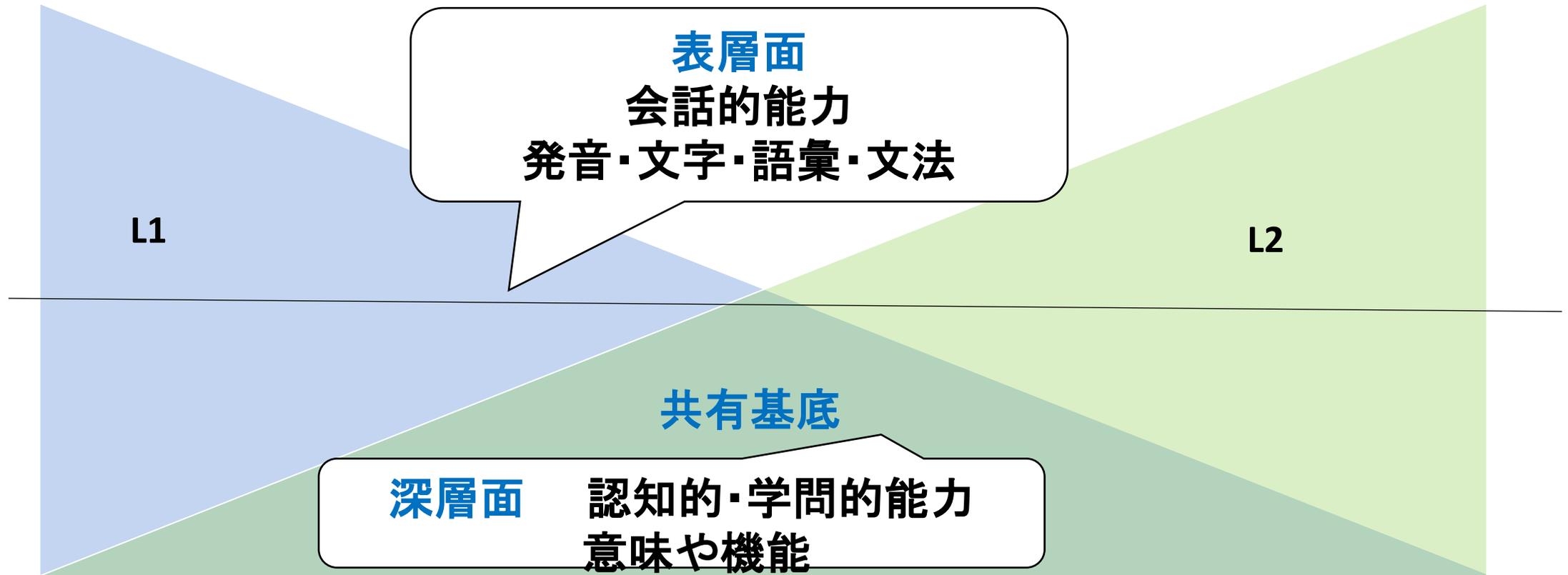
学習場面のことばの力

- ・話しことばと書きことば
- ・学習活動への参加と言語を意識した学習を通して習得



参照: ベーカー, コリン (1996) (岡秀夫訳・編) 『バイリンガル教育と第二言語習得』 大修館書店

中島和子 (2016) 『バイリンガル教育の方法完全改訂版』 アルク



母語の役割: アイデンティティ、自尊感情、認知的発達

参考 母語と第二言語との関係 (カミンズの相互依存仮説)

参照: ベーカー, コリン (1996) (岡秀夫訳・編) 『バイリンガル教育と第二言語習得』 大修館書店
中島和子 (2016) 『バイリンガル教育の方法完全改訂版』 アルク 参照

2023年8月8日

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育ユニット

外国人児童生徒教育研修

分科会の実践事例

小学校分科会

千葉多恵子(東京都羽村市立松林小学校)

衛藤景太(東京都板橋区立板橋大八小学校)

中学校分科会

渡邊順子さん(東京都新宿区立新宿中学校)

中村夏帆さん(愛知県岩倉市立南部中学校)